

受講
無料

直接会場に
お越しください

どなたでも
受講できます

文学部総合人文学科主催 シンポジウム

苦難と救済

—闇の後に光あり (post tenebras lux)—

「苦難と救済」という主題は、誰でも生涯何度も体験する様々な苦しみや困難をテーマとしており、そこからいかに救いを得るかという問題に関わる。特に世界各地のキリスト教会で宗教改革500年を記念してプロテスタントの原点を問い、再考する活動が行われているが、聖書はどのように苦難と救済を論じているかに焦点を当てる。宗教改革者ジャン・カルヴァンは、スイスのジュネーヴで宗教改革を推進する上で多くの苦しみや困難を経て福音主義に立つ町を形成したが、彼の『詩編註解』はその心境をよく表している。「闇の後に光あり」とした副題の解説と共にカルヴァンの苦難と救済の理解を問い、さらに平和の問題へと広げ、深く現代の問題として扱う。

2019年 **5月18日** 13:00 ~ 16:30 **土**

会場

土樋キャンパス
ホーイ記念館ホール

講師

闇の後に光あり (post tenebras lux)

—ジュネーヴにおける宗教改革とその後—

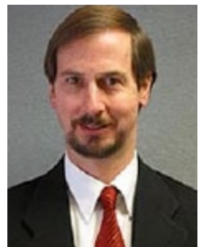


本学文学部教授、本学宗教部長、
アジア・カルヴァン学会日本支部代表、
日本カルヴァン研究会会長

野村 信氏
(のむら しん)

東京神学大学大学院卒、米国ウェスタン神学校(Th.M)。共著『新たな一歩を(カルヴァン生誕500年記念論集)、学会誌編集『カルヴァン研究』創刊号(ものとし)、カルヴァン説教翻訳『霊性の飢饉』他。

私を見捨てた神を呼ぶ —「苦難を問う」カルヴァンの祈り—



米国ランカスター神学校講師、
ノートルダム大学名誉教授

Dr. Randall Zachman 氏
(ランドル・ザッカマン)

イエール大学神学部卒、シカゴ大学(Ph.D)。米国16世紀学会会長、米国カルヴァン学会会長を歴任。主要著作として、『ジャン・カルヴァン再構築』、『ジャン・カルヴァンのイメージと言葉』、『ジャン・カルヴァン:教師、牧師、神学者』など、宗教改革、教会史、カルヴァンに関する著作・編著・論文など多数。

平和についての カルヴァンの幻(ヴィジョン)



神戸改革派神学校校長
日本キリスト改革派甲子園教会牧師

吉田 隆氏
(よしだ たかし)

東北大学卒、改革派神戸改革派神学校を経て、プリンストン神学校(Th.M.)、カルヴァン神学校(Ph.D.)修得。著作『「ただ一つの慰めに生きる」～「ハイデルベルク信仰問答」の霊性』、『カルヴァンの神学と霊性(大森講座)』(新教出版社)、翻訳『ハイデルベルク信仰問答』他。

主催 東北学院大学
文学部総合人文学科

共催 東北学院大学研究ブランディング事業
「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」